

教えて!

わたしのドクター
Dr.相談室

【case】性行為感染症について

おりものの異常や外陰のかゆみを引き起こす「性行為感染症」には、以前解説したトリコモナス感染症の他に、クラミジア感染症や淋菌感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマがあります。

クラミジア感染…性行為後数日～2・3週間の潜伏期を経て、おりものが増え、時に少量の出血を伴い下腹痛を認めます。鼠径部のリンパ節の腫脹や熱感を伴うこともあります。本症では無症状の方も多く、感染に気付かないまま放置すると卵管炎、腹腔内癒着を来して、不妊症の原因となることもあります。男性では、排尿痛や尿道の不快感が見られることもありますが、女性同様無症状も多いです。妊娠中のクラミジア感染は、切迫早産や新生児への肺炎、結膜炎を引き起こすため、公費負担で妊婦全員に検査を実施しています。治療は抗生剤の内服となりますが、夫婦内の性行為でお互いに感染させる「ピンポン感染」を起こすので、原則夫婦同時に治療をすることを勧めています。

淋菌感染…性行為後数日間の潜伏期を経て、白色のおりものが増え、時に少量の出血を伴い下腹痛を認めます。これらの症状は一般にクラミジア感染症よりも重く、腹腔内に膿が溜まると入院治療が必要となります。男性では、尿道の白色分泌物が増え、強い排尿痛が起きます。クラミジアとの重複感染もあるため、検査を実施します。治療は抗生剤を用いますが、薬剤耐性菌が増えていることから内服よりも点滴治療が一般的です。

性器ヘルペス…単純ヘルペスウイルス(HSV)の感染によって、外性器に水疱や潰瘍などの病変が形成される疾患で、初

発では特に症状が重く、潰瘍性疼痛のため排尿痛や歩行困難、発熱を来すことがあります。一度感染すると神経節に潜伏し長年にわたって再発を繰り返すため、初発時の丁寧な治療が重要です。女性では月経時に再発することが多く、チクチクするといった違和感を訴えることが多いです。免疫の低下に伴い、細菌性膣炎を併発するとおりものが多くなり、同時に治療する必要があります。治療は、抗ウイルス剤を初発では10日間、再発では5日間内服し、鎮痛剤や外用薬を併用することもあります。分娩時に発症すると、産道感染により新生児の脳炎を発症する恐れがあり、慎重な対応が求められます。

尖圭コンジローマ…ヒトパピローマウイルスHPVの6、11型が感染し、数週間～3ヶ月間の潜伏期を経て、外陰・肛門周囲に乳頭状・鶏冠状・カリフラワー状の疣贅を認めます。外陰の違和感やかゆみ、疣贅に触れて気付くことが多いです。子宮頸部や陰内に病変が存在するとおりものが増えることもあります。診断は特徴的な皮膚病変から、視診だけでも十分可能ですが、悩ましい場合はバイオプシーによる病理検査を実施します。稀に自然治癒することもあります。逆に広がることもあるため、出来るだけ早期の治療を勧めています。外科的治療には切除、CO2レーザー蒸散法、電気メスによる焼灼法がありますが、多発している場合や妊娠中は切除や5-フルオロウラシル軟膏の塗布を勧めています。再発することがあるため、定期的な受診を勧めています。また、HPVは子宮頸癌しきゅうけいがんの発症とも深く関わっているため、子宮頸癌検診も勧めています。

青葉レディースクリニック

☎092-663-8103

☎福岡市東区若宮5-18-21 休日・祝日

☎月～土曜日9:30～12:00 / 15:00～18:00

(水曜日のみ12:00まで) <http://aoba-ladies.jp>



今回のDr.は… 小松 一先生

高知県出身。産婦人科専門医。「青葉レディースクリニック」理事長。九州大学医学部卒業。九州大学病院産科センターや北九州市立医療センター、九州病院などで研鑽を重ね、2007年に開業。高齢出産を多く手がけており、丁寧な説明と安心できる分娩を心がける。